

安全な航海のために ~For Your Safe Navigation~

プレジャーボート海難の約4割はエンジントラブルです！
海上でエンジンが止まると漂流だけでなく、浅瀬等への乗揚げや他船との衝突、気象状況によっては転覆事故に繋がる危険性があります。

エンジントラブルの多くは、発航(出港)前の簡単な点検で防ぐことができますので、このマニュアルを参考として発航前点検を実施し、安全で快適なマリンレジャーを楽しみましょう！

◎点検の実施箇所

A 燃料系

B 電気系(バッテリー)



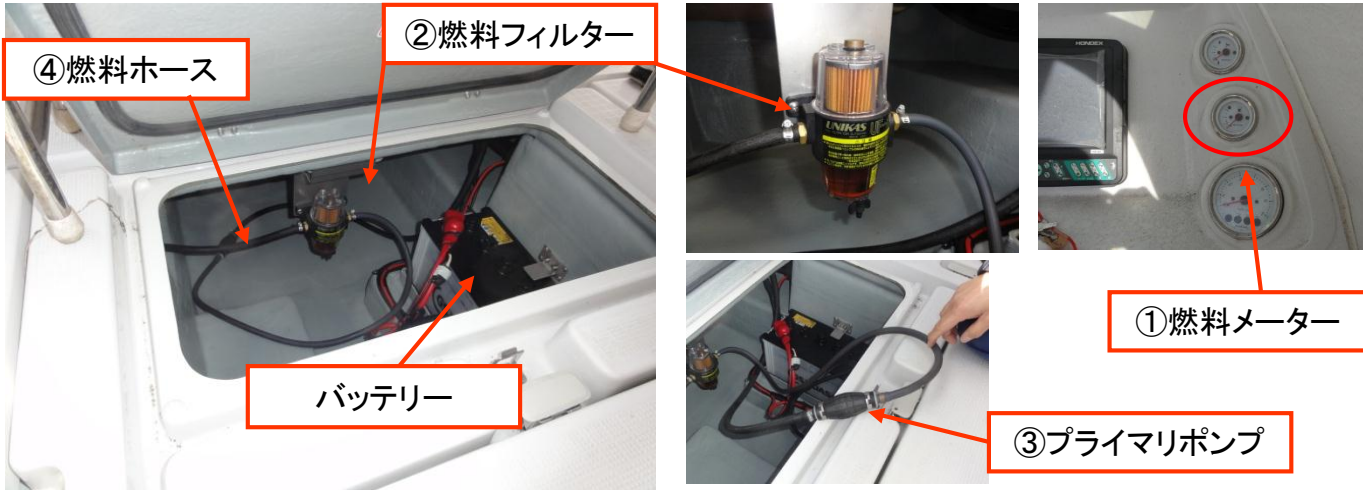
C 船外機(エンジン)

※スズキ 150馬力(4ストローク)



点検のポイント！～ここは必ず点検を！～

A 燃料系点検



この船では、船体後部のハッチをあけると、燃料フィルター、バッテリーが設置されています。燃料タンクは船体内部に設置されています。

- ①燃料残量を操縦席の燃料メーターで確認！
- ②燃料フィルターが汚れていないか、フィルター内に水が入っていないか確認！
- ③プライマリポンプを突いて燃料を確実に送る！ 亀裂等が入っていないか確認！
- ④燃料ホースにも亀裂が入っていないか確認！

※燃料系に異常があると、エンジンが停止します！

B 電気系(バッテリー)点検



①バッテリースイッチONの確認！入港後は必ずOFFに！

②バッテリー液量はレベル内にあるか確認！

※メンテナンスフリーバッテリーは、点検窓(色)の確認！緑(正常)、白(要注意)、赤(液不足)

③バッテリー端子は確実に締め付けられているか、腐食等はないか確認！

**※釣りなどのため機関を停止した際はレーダー等の計器類の使用は要注意です。
バッテリーあがりの原因になり、エンジンが起動しなくなります！**

C 船外機(エンジン)点検

1 エンジンオイル系点検



①エンジンオイルの確認



②エンジンオイルフィルターの確認

①エンジンオイル量、汚れの確認！

②オイルフィルターが汚れていないか、フィルター内に水が入っていないか定期的に確認！

2 冷却水系点検



①冷却吸入口の確認

①冷却水吸入口にビニール等のゴミが挟まっていないか確認！

②冷却水はしっかり出ているか確認！

3 その他



①スパークプラグの確認

②アノード(電気防食用垂鉛)の確認



腐食後のアノード(電気防食用垂鉛)

- ①スパークプラグが劣化していないか定期的に確認！
- ②アノード(電気防食用垂鉛)の減り具合を定期的に確認！
(アノードがなくなると、エンジン自体の腐食の原因となります。)

※取り外しには工具が必要になります。

※船外機に異音などの異常を感じたら、マリーナ等で点検整備を実施しましょう！

★メーカーで紹介している点検時期の目安！ ※参考:スズキ

・エンジンオイル、ギヤオイル

初回使用20時間、その後は運転100時間または使用6ヶ月毎に交換してください。

・オイルフィルター

初回使用20時間、その後は200時間又は使用1年毎に交換してください。

★発航前点検と同様に入港後の水洗い、点検等も重要です！

・入港後の真水洗い

航行後は毎回船外機外板と冷却水路を真水洗いしましょう！水洗いが出来ない場合は、冷却海水を抜けたのを確認してチルトアップ等の作業を実施しましょう！

※船外機から海水が抜けていないと腐食の原因となります。

第四管区海上保安本部交通部安全課

(公社)中部小型船安全協会

